

**情報通信審議会 情報通信技術分科会 電波利用環境委員会
CISPR B 作業班（第 1 回）議事要旨（案）**

- 1 開催日時：平成 23 年 8 月 11 日（木） 10 時 00 分～12 時 30 分
- 2 開催場所：総務省 10 階 第 1 会議室
- 3 出席者（順不同）

【構成員】井上主任(KEC)、吉岡主任代理(富士電機)、厚澤構成員(JR 東日本、代理：小泉様)、石田構成員 (ARIB)、伊藤構成員 (電事連)、大槻構成員 (電技協)、金子構成員 (日本溶接協会)、川崎構成員(鉄道総研)、木下構成員(オリンパス)、後藤構成員 (NICT)、小橋構成員(三洋電機)、篠塚構成員(NICT)、田辺構成員(電力中研)、中村構成員 (鉄道総研)、野田構成員 (西山工業)、林構成員(三菱電機)、三浦構成員 (電気興業)、森光構成員(パナソニック)、山口構成員(超音波工業会)

【事務局】浦賀・加賀谷・郷藤(総務省)

4 議事概要

- (1) 事務局から配付資料の確認が行われた。
- (2) 事務局から構成員交代の説明があり、新構成員の挨拶があった。
- (3) 資料 1-1 前回議事要旨案について、事務局から修正意見の照会漏れについて説明があった。後ほど修正版を配布し、修正意見等あれば 1 週間以内に事務局まで連絡することとなった。エディトリアルな修正の後、承認された。
- (4) 資料 1-2 CISPR ソウル会議 SC/B 対処方針（案）について、吉岡主任代理から説明があり、以下の議論の後承認された。
 - 井上 主任：5.1 項の最後の記述について、SC/B は日程的に総会の前になるので誤りである。「総会の対処方針に沿って対応する」と修正しすべきである。
 - 吉岡主任代理：了
- (5) 資料 1-3 CISPR ソウル会議 SC/B WG1 MT-GCPC 対処方針（案）について、吉岡主任代理から説明があり、以下の議論の後承認された。
 - 篠塚構成員：6 項の 1stCD について、許容値は何を元に作成するのか。
 - 井上 主任：1stCD は骨格を提示するもので、許容値は空欄としている。1stCD は 2012 年発行予定なので、その準備となるもの。
 - 吉岡主任代理：ウィーン会議で、一部の許容値は合意が得られている。また、RRT にあたって、機器の試験配置についても合意が得られている。それ以外に

についても日本提案を盛り込んだものを 1stCD を作成したいと考えている。

○林 構成員：5.3 項のモデルについて、新規の審議文書がないが、ドイツとの合意が得られたかどうか、よく分からなくなっており、どう対処するのか。

吉岡主任代理：日本から新たに文書を提案する予定である。

(6) 資料 1－4 CISPR ソウル会議 SC/B WG1 MT-APD 対処方針（案）について、篠塚構成員から説明があり、以下の議論の後承認された。

○吉岡主任代理：SC/B 会合にて作業計画に盛り込まれるという想定に基づく対処方針か。

篠塚構成員：想定の下に策定している。もし盛り込まれない場合、MT-GM の 4.1 項と関連する問題が残る。

後藤構成員：MT-GM の 8.4、8.5 項とは関連するのか。

篠塚構成員：関連すると思われる。4.1 項と同様である。

吉岡主任代理：11-16 文書は、ウィーン会議において少数で承認されたが、次回会合において確認するとなっている。作業完了と書いているが、議論の余地がある。

後藤構成員：APD の項目 5 の議論ができなければ GM で議論する。

篠塚構成員：NICT で取得しているデータは、項目 8.5 に対応するものなので、その中の議論に反映されていくということか。

吉岡主任代理：GM では作業担当者を決めることになっているが。

後藤構成員：GM に議論が移った時は当方が担当させていただく。

○森光構成員：515DC に対する CC 文書は出てくるのか。

篠塚構成員：各国のコメントがあったものは CC 案に入っている。

林構成員：事務局に聞いても現在の CC 案が全てとのこと。

篠塚構成員：現在、APD の推進に対して過半数が賛成との情報は入ってきている。

(7) 資料 1－5 CISPR ソウル会議 SC/B WG1 MT-GM 対処方針（案）について、吉岡主任代理から説明があり、意見がある場合は 9 月末までに提出することとなった。

(8) 資料 1－6 CISPR ソウル会議 SC/B WG2 対処方針（案）について、田辺構成員から説明があり、以下の議論の後承認された。

○井上 主任：日本から提案の予定はあるのか。

田辺構成員：特に予定していない。あるとすれば TR18 の MT。

○吉岡主任代理：337DC 150kHz 以下の高調波について CISPR 全体で審議することが決定し、TC77 SC77A 等の他の TC でも審議が予定されている。パワーメーター

のイミュニティとインバータのニブル電源の問題で、ドイツからはAMNの改造の提案がされており、経緯からWG2で扱うかもしれないが、装置の話なのでWG1で議論されると思われる。

田辺構成員：WG2のSCOPEは高電圧だが、系統に繋がっているということで扱うかもしれない。まずは話を聞く。

井上 主任：CISPR全体の方針が決まっていないので、まずは話だけであろう。

○井上 主任：資料1-2 7.1.1項で現状維持とはどういう意図か。

川崎構成員：絶対値規制をしないというスタンス。周波数範囲の拡大等は協力。

井上 主任：メンテナンスで絶対値規制の話が無いのであれば、必要ないのでは。

川崎構成員：では記述を削除する。

(9) 資料1-7 CISPR ソウル会議 SC/B 関連会議参加者（案）について、事務局から説明があり、特に異議なく承認された。

(10) 資料1-8 CISPR/B/516/DC 文書の審議表について、吉岡主任代理、篠塚構成員から説明があり、以下の議論の後承認された。

○吉岡主任代理：製品の話になった時に下げないでほしいという話になる。

篠塚構成員：CISPR11の傾向と合わせる必要があると考える。また、日本から in situ による測定を提案しているので、それとの整合性を取るべきである。

吉岡主任代理：ウィーン会議ではクラスAとクラスBはフラットで合意してきた。

野田構成員：逆にフラットが良いという説明をどのようにするのかという指摘である。

井上 主任：下げるほうが合理的と思われる。

吉岡主任代理：太陽光発電用のインバータを CISPR11 に導入するにあたっての提案であるが、すべての製品に関わってくることなので、メーカーとしてはフラットを認めてほしい。

篠塚構成員：in situ で伝導不要となるので、放射対策のみとなるので、測定については緩和されていると思われるが。

吉岡主任代理：製品規格との差をどう解消するか。

井上 主任：MTでの合意とNC間での合意は異なるものであり、ウィーン会議での合意に拘る必要はない。また、これでも緩すぎるという意見も予想される。

(11) 資料1-9 CISPR/S/338/Q 文書の審議表について、井上主任、篠塚構成員から説明があり、特に異議なく承認された。

(12) 次回会合は未定。

以上